

食品安全研究会

【食品微生物研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u> 論文を作成中。</p> <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u> NITE との MOU を締結。第一回会議を 3/6 に実施予定。</p> <p>(3) <u>チルド勉強会</u> 2/9 に勉強会を実施</p> <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u> ワーキングチームでの活動を 2/27、3/7 に実施予定。</p> <p>2. 部会全体会議 日時：2017 年 1 月 31 日(金) 13:30-14:00 場所：キューピー(株)／東京、参加者：50 名 ・各分科会からの活動報告 ・その他、審議および報告</p> <p>3. 勉強会 日時：2017 年 1 月 31 日(金) 14:30-17:30 場所：キューピー（東京）、参加者：57 名 ・勉強会テーマ(1)：NITE/NBRC における事業と共同研究 講師：NITE 川崎先生、木村先生 ・勉強会テーマ(2)：ノロウイルスに関する最新の研究 講師：北里大学教授 片山先生</p> <p>4. 次回、部会全体会議・勉強会の予定 日時：2017 年 5 月 19 日(金) 13:00-18:00 場所：花王(株)すみだ事業場／東京 ・部会：各分科会からの活動報告、他 ・勉強会テーマ：HACCP 制度化と食品業界の対応 講師：食品産業センター技術環境部次長 宮本様、他</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u> ・論文作成 缶詰時報受理（缶詰時報 5 月号掲載予定） 「甜菜糖の耐熱性細菌芽胞の汚染評価と紫外線殺菌による不活化」 ・技術レポート（缶詰時報 6, 7 月号掲載予定） 「高温性嫌気性有芽胞細菌の統一検査手法の開発」（全 2 回） ・耐熱性好酸性菌のまとめについては進捗なし。</p> <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u> ・NITE との第一回会議を 3/6 に実施し、カビ同定のスタンダードプロトコルの構築を目指すことで合意。ILSI からカビの菌株リストを提供。第二回会議（6/13 を予定）</p> <p>(3) <u>チルド勉強会</u> ・腐敗に関わる低温性芽胞菌についての勉強会（5/30 を予定）</p> <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u> ・全国清涼飲料工業会 広報部との活動を開始した。</p> <p>2. 2017年第2回部会全体会議と勉強会の予定 日時：5 月 19 日（金）13:00-17:15 場所：花王(株)すみだ事業場（東京） ・各分科会からの活動報告 ・公開シンポジウムについて審議、共有化 等 ・勉強会 HACCPについて</p>

	<p>講師：食品産業センター 宮本様、月刊HACCP 立石様</p> <p>・施設見学（花王ミュージアム等）</p>
5, 6 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術報文：「甜菜糖の耐熱性細菌芽胞の汚染評価と紫外線殺菌による不活化」、缶詰時報 5 月号掲載済 ・技術レポート：「高温販売する低酸性飲料用原料の高温性嫌気性有芽胞細菌統一検査手法の開発」、缶詰時報 6 月号掲載済 <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NITE との第二回会議を 6/13 に実施。カビ分析法のスタンダードプロトコルの進捗を共有。食品危害カビの系統樹をもとに、優先的に解析するカビについて議論した。第三回会議（10/17）を予定。 <p>(3) <u>チルド勉強会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/30 低温増殖性芽胞菌に関する勉強会実施。 <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国清涼飲料工業会（全清飲）広報委員会と ILSI 参画企業の連携活動として、お客様向けハンドブック作成を進行中。東海大学の後藤先生の監修を受け、変敗するメカニズムをわかりやすく盛りこむ。8 月完成目標。 <p>2. 2017年第2回部会全体会議と勉強会</p> <p>日時：5 月 19 日（金）13:00-17:15</p> <p>場所：花王(株)すみだ事業場（東京）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分科会からの活動報告 ・公開シンポジウムについて審議、共有化 等 ・勉強会：HACCP の制度化について <p>講師：食品産業センター 宮本様、月刊 HACCP 立石様</p> <p>・施設見学（花王ミュージアム等）</p> <p>3. 2017年度第3回部会全体会議と勉強会（予定）</p> <p>日時：9 月 28 日（木）13:00-17:00</p> <p>場所：不二製油(株)阪南事業所</p> <p>4. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウム（予定）</p> <p>題名：HACCP を支える微生物検査とその最新技術</p> <p>日時：12 月 15 日（金）10:30-17:00</p> <p>場所：東京大学弥生講堂一条ホール</p> <p>対象：一般</p>
7, 8 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カビ分析法のスタンダードプロトコルの進捗について、NITE との第 3 回会議(10/17 もしくは 24) を予定。 <p>(3) <u>チルド勉強会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外チルド食品ガイドライン等の勉強会（10/11）を予定。 <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国清涼飲料工業会の広報委員会と ILSI 参画企業の連携活動として、お客様向けハンドブックが 8 月末完成した。同様の内容を動画でも作成中。 <p>2. 2017年度第3回部会全体会議と勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：9 月 28 日（木）13:00-17:00 ・場所：不二製油(株)阪南事業所

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部会：分科会報告、シンポジウム関連等 ・ 勉強会：日本食品分析センター学術顧問 浅尾先生 「指標菌の有用性と限界（仮題）」 <p>3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名：HACCPを支える微生物検査とその最新技術 ・ 演者：①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、⑤東京海洋大学教授 木村先生 ・ 日時：12月15日（金）10:30-17:10 ・ 場所：東京大学 弥生講堂一条ホール ・ 対象：一般（先着250名、HPより参加申込み） ・ 参加費：5,000円、学生1,000円
9, 10 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温性嫌気性細菌検査法の各社の展開状況確認、ソフトドリンクスへの掲載検討、<i>Alicyclobacillus</i> 属の挙動の公表方法等に関する打ち合わせの実施（9/12） <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NITE との第3回会議を実施（10/24）：カビ分析法のスタンダードプロトコルの進捗について <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外チルド食品ガイドライン等の勉強会を実施（10/11） <p>(4) 飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ完了 <p>(5) NGS プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI Europe 主催の会議に ILSI Japan 代表として東京海洋大学教授 木村先生にご出席いただいた（10/5） <p>2. 2017年度第3回部会全体会議と勉強会を実施（9/28）</p> <p>3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウムを予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名：HACCPを支える微生物検査とその最新技術 ・ 演者：①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、⑤東京海洋大学教授 木村先生 ・ 日時：12月15日（金）10:30～17:10 ・ 場所：東京大学 弥生講堂一条ホール ・ 対象：一般（先着250名、HPより参加申込み） ・ 参加費：5,000円、学生1,000円
11, 12 月	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カビ分析のスタンダードプロトコル作成に関して 10/24 に第4回会議を実施。糸状菌 (<i>Aspergillus sect. Nigri</i>) の MALDI-TOF MS 解析の状況を共有。

第5回は2/20または27に実施予定。

(3) チルド勉強会

- ・ 次回勉強会（3～4月予定）に向け、英国チルド食品協会資料等を収集中。

(4) 飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動

- ・ テーマ完了

(5) NGSプロジェクト

- ・ ILSI Europe との取組も大詰めとなり、概ねガイダンス文書の作成が終了した。これから編集と投稿先の選定に入る。

2. 2017年度第4回部会全体会議を実施（12/15）

3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウムを開催

- ・ 題名：HACCPを支える微生物検査とその最新技術
- ・ 演者：①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、
③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、
⑤東京海洋大学教授 木村先生
- ・ 日時：12月15日（金）10:30-17:10
- ・ 場所：東京大学 弥生講堂一条ホール
- ・ 参加者：約200名
- ・ 詳細は、「イルシー」誌に掲載予定

食品安全研究会

【食品リスク研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>1. 部会および勉強会調整 日時：2017年3月30日 13:30-17:00 場所：ILSI 事務局 勉強会：国立衛研・梅村先生による「JECFA 評価にみる食品安全の国際評価動向」を予定。 2. 部会に先立ち、今後の活動についてのアンケートを実施。役員交代を踏まえた今後の体制案を検討中。</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>1. 部会 日時：2017年3月30日 13:30-15:00 場所：ILSI 事務局 参加者：15名 ・3月23日に開催された国立医薬品食品衛生研究所、小島肇先生との「ILSI 新寄付講座および ILSI での食品安全関係の取組みテーマに関する議論」について、ILSI 事務局より報告があった。 ・ILSI Japan 食品リスク研究部会の規約が部会長より提案され、承認された。 ・2017年度部会長及び副部会長が承認された。 2. 勉強会 日時：2017年3月30日 15:00-17:00 場所：ILSI 事務局 参加者：17名（演者除く） 講演者：国立医薬品食品衛生研究所 梅村隆志先生 演題：「第 82,83 回 JECFA 評価にみる食品安全の国際評価動向」</p>
<p>5, 6 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Working Group 新設にむけた準備 ・ 2017年度のワーキンググループ活動案を策定。現在これをベースとして各ワーキンググループの活動目標の設定作業に着手した。 ・ 部会開催予定 日時：2017年7月14日、13:30~15:00 場所：サントリービル ・ 勉強会開催予定 日時：2017年7月14日 15:30-17:00 場所：サントリービル 講演者：藤渕 航（ふじぶち わたる）先生（京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門理論細胞解析分野） 演題：「ヒト ES / iPS 細胞を用いた新しい簡易毒性試験とコンソーシアムの実現に向けて」
<p>7, 8 月</p>	<p>1. 部会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日時：2017年7月14日、13:30~15:00 ・ 場所：サントリービル <p>2. 勉強会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日時：2017年7月14日 15:30-17:00 ・ 場所：サントリービル ・ 講演者：藤渕 航（ふじぶち／わたる）先生（京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門理論細胞解析分野） ・ 演題：「ヒト ES / iPS 細胞を用いた新しい簡易毒性試験とコンソーシアムの実現に向

	<p>けて」</p> <p>3. 部会活動に関する意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月21日(金) 東京農大教授/ILSI Japan 理事の中江先生を安川理事、宇津事務局長、徳田事務局次長、真鍋部会長で訪問、今後の部会活動に関して意見交換を行った。
9, 10月	<p>1. ILSI Europe 支援対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品分野の動物実験代替推進を目的として ILSI-Europe より本邦の動物実験が関与する関係法規の調査、纏め及び発表についての要請があり、WG2 が協力することとした。本件につき国衛研小島先生にご支援いただけることとなった。 <p>2. ワーキンググループ活動 (10/24 開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食品リスク評価新技術勉強会 (WG2)」：①ILSI-Europe 協力対応、②講演会・講習会開催、③勉強会 (In vitro 毒性評価手法の開発状況調査及び代替法の食品分野への応用検討)、をテーマとすることとした。 ・ 「食品リスク評価課題解決 (WG3)」：①高齢者対象とした食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信、②GEMS FOOD データベースの日本食品掲載に向けた活動、をテーマとすることとした。 <p>3. 勉強会開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演題：新たな時代に対応した食品リスク評価技術の検討 ・ 演者：内閣府食品安全委員会事務局 評価技術企画推進室長 橘薫子先生 ・ 日時：2017年11月30日 15:00～ ・ 場所：ILSI Japan
11, 12月	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/22に開催された ILSI Japan 理事会において、ILSI Japan として食品分野の動物実験代替を推進していくことが確認された。 ・ 食品リスク評価新技術勉強会 (WG2)：①ILSI Europe の主催する 2018年9月の EUROTOX のシンポジウム (食品規制で求められる動物実験) 参加に向け、国衛研小島先生とスケジュールおよび役割分担を確認した。②「構造未知で微量の不純物の安全性評価をどうするか (仮)」のテーマ化を検討することとなった。③HESS (リードアクロス) 勉強会について、NITE (代々木上原) での講習会を検討することとなった。 ・ 食品リスク評価課題解決 (WG3)：①高齢者を考慮した食品の安全性評価に関わる課題について議論、整理を行った。②GEMS FOOD データベースの概略が紹介され、どのような活用方法があるか議論、今後、国衛研や健康栄養研の有識者をお招きするなどの意見があった。 <p>2. 勉強会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣府食品安全委員会事務局評価技術企画推進室長の橘薫子先生をお招きし、「新たな時代に対応した食品リスク評価技術の検討」と題して勉強会を行った。

食品安全研究会

【香料研究部会】

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

バイオテクノロジー研究会

◆バイオテクノロジー研究会全体【植物研究部会を含む】

<p>1, 2 月</p>	<p>全体会議を2月15日に開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ERAプロジェクト調査報告第31号勉強会 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ERAプロジェクト調査報告第30号 (JAN2017) 1月発刊予定 (イ) ERAプロジェクト調査報告第31号 (MAR2017) 3月発刊予定 2. ERAワークショップ・勉強会のフォローアップ <ul style="list-style-type: none"> (ア) 後藤氏より、雑草性に関する論文作成の進捗について報告が行われた。論文の内容については大澤先生、黒川先生に相談しながら進めており、黒川先生からは論文の概要について了承を得た。今後は農林水産省に進捗を報告し、6月に育種学研究に日本語で投稿することを目指している。 山根氏より、ILSI-CERA (Andrew Robert)に対し、論文を作成中であること及び原稿レビューのお願いをすることが合意された。また、IFBCへの確認が必要となるか、併せてAndrew氏に確認することとした。 3. ゲノム編集ワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 高橋氏より、準備状況の報告が行われた。開催日は7月10日、目的はゲノム編集に期待が高まっていることを国民に知らせることと、国民への情報提供活動の成果、海外の規制状況の説明とし、関係団体と共催で行う。 4. GM食品添加物の今後について： <ul style="list-style-type: none"> (ア) 加村氏より、添付スライドに基づき状況の報告が行われた。高度精製添加物の自主判断基準について、1月17日に発表されたFSCからの文書中の「確認済み非有効成分」が何を指すものなのか、今後MHLWに確認する予定。 (イ) 高度精製食品については、高度精製添加物の自主判断基準の問題が解決後に取り組む予定であることが報告された。 5. ILSI HESIのアレルゲンデータベース COMPARE の紹介が笠井氏から行われた。ILSI HESI よりコミュニケーション用資料が送られてきたら、次回の研究会でその扱いについて検討することとした 6. Biosafetyに関する報告 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 笠井氏より、昨年12月にメキシコで行われた COP/MOP 13 会議の報告が行われ、懸案となっていた Risk assessment document は、内容には問題はあるものの全く強制力を持たない” take note of” という位置付けになったこと、synthetic biology の議論が利益配分及びリスク評価の観点から今後も長く続くと思われる事などが紹介された。 7. 会計報告 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 加村氏より会計報告が行われた。 8. 研究会人事異動 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 末木さんの訃報について：今後、偲ぶ会があった場合にはメンバーに報告することとなった。 (イ) 池畑さんの退職について：感謝の意を表すため、昼食会を行うこととした。 (ウ) 4月からモンサントの ILSI 代表は山根氏から中井氏に交代。 (ア) それに伴い、4月からの幹事会メンバーの変更が承認された：研究会会長 笠井氏；副会長 加村氏、高橋氏、中井氏
<p>3, 4 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2017年度 第2回目の会議を4月18日に開催 <ol style="list-style-type: none"> (1) 4月からの新幹事の紹介。 (2) ERAプロジェクト調査報告 第31号の勉強会。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (3) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI HESI の要請を受け、今後本データベースを関係各所にどのように普及するかについて議論を行った。 ・ 追加のコミュニケーション用資料を待って、次回の会議で再度話し合うこととした。

	<p>(4) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> GM 微生物食品の安全性評価資料作成のポイントをまとめた文書を ILSI バイオテクノロジー研究会のウェブサイトに掲載することについて合意した。 <p>(5) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ISBGMO 会議が 6 月上旬にメキシコにて開催されることの報告が行われた。筑波大学教授 大澤先生など 5 名の専門家に参加を依頼。研究会からは中井氏、松下氏が参加予定。9 月から 10 月に報告会を開催予定。 昨年 11 月 14 日に開催された ERA 勉強会の内容をまとめた論文準備の進捗が報告された。今後、専門家のレビューを受け 6 月末に投稿予定。 7 月 10 日に、SIP 次世代農林水産業創造技術コンソーシアムとの共催で開催を予定しているゲノム編集ワークショップの準備状況について報告が行われた。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告 第 31 号を 4 月に発行。</p>
5, 6 月	<p>1. 2017 年度 第 3 回目の会議を 6 月 26 日に開催</p> <p>(1) 在田氏が事務局次長としてバイオテクノロジー研究会の支援をしてくださることになった旨が報告された。</p> <p>(2) 5 月 18 日の ILSI 部会長会議の報告。</p> <p>ILSI の行動原則について研究会メンバーに周知した。また、歳入・歳出の透明性について、再度、バイオ研究会として事務局に要望することが合意された。</p> <p>(3) ERA プロジェクト調査報告 第 33 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(4) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本データベースの普及にあたり、チームを立ち上げた。今後は、チームで説明資料を作るなど、ILSI HESI と連携を取りながら進めることとした。 <p>(4) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> 6 月中旬に ILSI バイオテクノロジー研究会のウェブサイトに遺伝子組換え微生物食品の安全性評価資料作成の手引書が掲載されたことが報告され、各自周知に努めることとなった。 <p>(5) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> 6 月に開催された ISBGMO 会議報告が、参加した中井氏、松下氏より行われた。現在、イルシー誌に掲載する原稿の作成中。 昨年の ERA 勉強会の内容をまとめた論文準備の進捗が報告された。 7 月 10 日開催のゲノム編集ワークショップの準備状況について報告が行われた。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 32 号は 7 月発行に向け準備中。 報告 No.151-300 の集約版を作成することを合意。準備チームを立ち上げた。
7, 8 月	<p>1. 2017 年度 第 4 回目の会議を 8 月 9 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 34 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9 月初旬に関係省庁の担当者を訪問し説明することとした。 <p>(3) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度精製食品について、新たな評価方法の試みがなされている旨が森下氏より報告さ

	<p>れた。</p> <p>(4) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 10 日開催のゲノム編集ワークショップについて、約 270 名が参加し、今後「イルシー」誌並びにホームページにおいて開催報告をする旨が報告された。 ・ 今秋予定されていた ERA 勉強会について、論文投稿の準備状況に合わせて時期を再検討することが話し合われた。 <p>(5) 今後の勉強会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代シーケンスのリスク評価への活用について勉強会を開催することとなった。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 号は 9 月発行に向け準備中。 ・ 送付リストの見直しを行うこととした。 <p>報告 No.151-300 の集約版は 34 号と一緒に 10 月に発行することとした。</p>
9, 10 月	<p>1. 2017 年度 第 5 回目会議を 10 月 26 日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第 35 号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9 月上旬に食品安全委員の GM 食品リスク評価担当者に説明を行った。Allergen online との違い等についての質問を受けたが、今後のリスク評価に本データベースを用いることについて了承が得られた。今後 ILSI HESI の了承を得て ILSI Japan の HP で本データベースを広く紹介することとした。 <p>(3) GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度精製食品として初めて L-Cit の安全性審査が終了した旨が報告された。 <p>(4) GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Data transportability についての論文を 11 月中旬に投稿予定。今後、英訳を作成し、育種学会の了承が得られたら英訳を ILSI の HP に掲載する予定。 ・ 来年予定されている ERA に関する勉強会及びワークショップの準備状況が報告された。 ・ ISBGMO の報告については、年内に報告会を開催することが時間的に困難であるため、「イルシー」誌にて報告することで合意した。 ・ 7 月に開催したゲノム編集ワークショップの報告書は最終化され、「イルシー」誌に掲載予定。アンケート結果については HP にのみ掲載する。 <p>(5) 次世代シーケンスのリスク評価への活用に関する勉強会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品安全委員会及び化学物質評価研究機構から講師を招聘し、12 月に開催することとなった。 <p>(6) 2018 年の活動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ERA 勉強会等、6 つのプロジェクトについて合意された。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 34 号を 10 月発行。 ・ 送付リストの見直しが終了し、次号より使用予定。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ No.151-300 の集約版の準備に遅れが出ているため、35号と一緒に12月に発行することとした。
11, 12月	<p>1. 2017年度 第6回目会議を12月15日に開催</p> <p>(1)ERA プロジェクト調査報告 第36号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2)ERA 報告書 集約版準備状況報告 (Ad-hoc team)</p> <p>過去の当研究会に関わる活動の紙媒体プログラムを、電子化し保管していくことを決定。</p> <p>(3)GM 微生物食品について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗報告なし。 <p>(4)GM 作物について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子組換え作物の生物多様性影響に関する考察についての論文を最終化し、投稿した。今後、英訳を作成し、論文掲載元の下承が得られたら英訳を ILSI のホームページに掲載する予定。 ・ 来年予定されている ERA に関する勉強会及びワークショップの準備状況が報告された。 ・ 第14回 ISBGMO の参加報告については、「イルシー」誌 (No 132) に掲載された。 ・ 7月に開催したゲノム編集ワークショップの報告書は最終化され、2018年1月発行の「イルシー」誌に掲載予定。アンケート結果についてはHPに掲載する。 <p>(5)2017年活動のまとめ及び2018年活動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ERA 勉強会等、6つのプロジェクトについて確認され、12月27日部会長会議で報告。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第35号および第16-30号の集約版を12月に発行。 ・ 見直された送付リストを使用。 <p>3. 「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」を12月15日に開催 (16:00-17:30、場所：アットビジネスセンター東京駅会議室、参加：70名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品安全委員会事務局評価第二課課長補佐内海氏、(財)化学物質評価研究機構 安全性評価技術研究所 研究第一部 斎藤氏を招聘。 <p>2017年3月に食品安全委員会より発行された「次世代シーケンサーの活用状況等に関する調査」報告書について、調査結果およびNGSを活用する際の留意点の認識を深めることを目的とし、活用状況等に関する調査、調査報告書の背景およびその内容を紹介いただいた。</p>

栄養健康研究会

【栄養研究部会】

<p>1, 2 月</p>	<p>2017 年度 第 1 回目の会議開催（1 月 25 日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部会の活動方針について意見交換 <ul style="list-style-type: none"> • 第 9 回ライフサイエンスシンポジウムの 2018 年開催を目標に今後活動していくこととした。（理由：上記シンポジウムの第 8 回は 2014 年に開催されたが、その後開催されていないため） 2. 第 9 回ライフサイエンスシンポジウムに向けて <ul style="list-style-type: none"> • 題目、テーマ等については、「案」を提案することとし、後日部会長が取り纏めることとした（2 月）。 • 「案」の取り纏めが終了したら、次回の部会で検討することとした。（なお、2019 年に開催が予定されている第 8 回「栄養とエイジング」国際会議も視野に入れるようにする。） 3. 勉強会開催に向けて <ul style="list-style-type: none"> • テーマ選定のため、各自、学会等でアンテナを張り、情報収集に努めることとした。
<p>3, 4 月</p>	<p>2017 年度 第 2 回目の会議開催（4 月 19 日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部会の活動方針について <ul style="list-style-type: none"> • 2020 年の東京オリンピック開催を視野に入れ、栄養研究部会は「運動と栄養」をキーワードとして、活動する。 • 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』の開催は 2018 年 9 月を目標とする。 • 2019 年 9 月開催の第 8 回「栄養とエイジング」国際会議のテーマとして、「日本の食事」（健康な食事研究会）が予定されており、そこに「運動と栄養」（栄養研究部会）の成果（第 9 回ライフサイエンスシンポジウム）を取り入れる方向で考える。 2. 今後の方針について <ul style="list-style-type: none"> • 運動あるいは栄養の専門家（アカデミアの先生）にアドバイスをいただいた上で、シンポジウムのプログラム案を立案・作成していく。
<p>5, 6 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム（テーマ：栄養と運動）』の開催に向けて、プログラムの構成についてアカデミアの先生からアドバイスをいただくため、2017 年 6 月 9 日に国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 宮地元彦先生を訪問。 2. 2017 年度 第 3 回目の会議開催（6 月 27 日） <ul style="list-style-type: none"> • 宮地先生の面談内容（アドバイス）の部内で共有化した。 • 宮地先生を栄養研究部会のアドバイザーとしてお招きすることに関して、部会で賛同が得られた。 • シンポジウムは半日ではなく 1 日とし、開催時期は日本体力医学会と重ならない 2018 年 9 月前後 2 か月とする。 3. 今後の方針について <ul style="list-style-type: none"> • 7 月に再度宮地先生を訪問し、先生からアドバイスをいただきながら、シンポジウムのプログラムを立案・作成していく。
<p>7, 8 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム（テーマ：栄養と運動）』の開催に向けて、プログラムの構成についてアカデミアの先生からアドバイスをいただくため、2017

	<p>年 7 月 21 日に国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 宮地元彦先生を訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 — 基礎研究から応用研究まで —」となった。 ・シンポジウムは 1 日とし、2018 年 7 月 26 日（木）7:30～18:30 で東京大学弥生講堂一条ホールを予約した。 ・8 月 9 日に、宮地先生からご提案いただいた先生方に講演依頼状を送付した。 <p>2. 今後の方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月に再度宮地先生を訪問し、先生からアドバイスをいただきながら、シンポジウムのプログラムを立案・作成していく。
9, 10 月	<p>2017 年度 第 4 回 部会を開催し（9 月 27 日）、以下について情報共有した。</p> <p>1. 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム（テーマ：栄養と運動）』について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 — 基礎研究から応用研究まで —」。 ・開催日：2018 年 7 月 26 日（木）（終日） ・場所：東京大学弥生講堂一条ホール（最大：300 名）。 ・プログラム案（講演依頼をご快諾ください先生方について） <p>2. 2018 年 ILSI Japan 研究会・研究部会 研究活動書・予算申請書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の名称、成果、活動計画（上記 1 のシンポジウムの参加費、支出、収支等）について意見交換。
11, 12 月	<p>2017 年度 第 5 回 部会を開催し情報共有した（12 月 4 日）。</p> <p>1. 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 —基礎研究から応用研究まで—」 ・開催日：2018 年 7 月 26 日（木）（終日） ・場所：東京大学弥生講堂・一条ホール ・プログラム案の最終バージョンについて：部会参加者で確認された。 ・ライフサイエンスシンポジウムの参加費について：部会参加者で確認された。 ・参加者増員のためのプロモーションについて：参加者増員のため、本シンポジウムの聴講が日本臨床栄養協会の「NR・サプリメントアドバイザー」、日本栄養士会の「生涯学習制度」、日本スポーツ栄養学会の「公認スポーツ栄養士」等の資格更新の研修単位として付与できるようにすることが提案された。 <p>2. 2018 年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記 1 のシンポジウムのプロモーションのため、日本臨床栄養協会、日本栄養士会等の研修単位制度の手続き等について情報収集することにした。 <p>3. 2019 年開催予定の「栄養とエイジング」国際会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「栄養とエイジング」国際会議のプログラム委員会に、栄養研究部会から 2 名（花王：三井、森永乳業：篠田）が委員として参加することが提案された。

栄養健康研究会

*GRプロジェクト

1, 2 月	• 第 3 回多施設試験を 10 施設で実施 (2016 年 8 月～)
3, 4 月	• 第 3 回多施設試験 (10 施設) の追試を 3 施設で実施
5, 6 月	• 第 3 回多施設試験 (10 施設) の追試を 3 施設で実施
7, 8 月	• 第 3 回多施設試験の再追試を 4 施設で実施。
9, 10 月	• 第 3 回多施設試験再追試の結果解析。
11, 12 月	• 第 3 回多施設試験意見交換会 (11/21、於 ILSI Japan 会議室) • 第 3 回多施設試験追試

栄養健康研究会

【茶類研究部会・茶情報分科会】

1, 2 月	<p>1 月 24 日会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶類研究部会新規テーマ：次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集進める。 ・茶成分データの共有に、会員サイトの DB 機能の利用確認 ・Eur.J.Clin.Nut. に発表した論文のを、各社で手分けして日本語化し、「イルシー」誌に投稿する。役割分担決定。 ・EFSA 安全性指針への情報提供について：情報のベースとなる論文のリストの確認およびレビュー内容の確認に関してスケジュール案を相談
3,4 月	<p>2017 年 3 月 22 日会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶類研究部会新規テーマ：次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集進める。 ・Eur. J. Clin. Nut.に発表した論文のを、各社で手分けして日本語化を開始。 ・EFSA 安全性指針への情報提供について→レビュー内容を各社で確認後、EFSA に提出した。
5,6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・茶成分データベース：静岡県立大学で、中国茶試料の測定試料を調製した。カテキン、カフェインを分析中。得られたデータは部会内で共有する。 ・茶類研究部会新規テーマ：次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集、勉強会を中心に進めることを決定した。
7,8 月	<p>7/14 分科会 打合せ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茶類の有効性・安全性情報の発信に関して システムティックレビュー（<i>Eur. J. Clin. Nut.</i> に発表した論文の日本語版）の「イルシー」誌への投稿。7/14 打合せで組版した初稿に対して修正議論を行った。「イルシー」誌に掲載済。 <i>Toxicology Letters</i>に掲載された Dekant らの論文に関して、情報共有。EFSA への情報提供の進捗共有。 2. 紅茶の成分テアフラビンなど有効成分に関する研究 テアフラビンの分析法標準化に関する ISO の動向の共有。 分科会内でも情報を共有する。
9,10 月	特になし
11,12 月	特になし

食品機能性研究会

◆寄付講座「機能性食品ゲノミクス」

1, 2 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
3, 4 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
5, 6 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
7, 8 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
9, 10 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。
11, 12 月	第 III 期寄付講座（2013 年 12 月開始、5 年間）研究進行中。

健康な食事研究会

◆健康な食事研究会全体

1, 2 月	
3, 4 月	<p>第1回の研究会を下記の通り開催した。 日時：平成29年4月27日(木) 10:00~12:00 場所：国際生命科学研究機構会議室 出席者：アカデミア:7名、インダストリー：15社、事務局/タスクフォース：4名 研究会内容： ILSI JAPAN 安川理事長から「研究会設立の背景と目的」「運営組織と活動内容」について説明</p> <p><u>背景と目的</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康な食事」の対象は日本人を念頭に、人類共通のことに目指し、毎年の ILSI の総会で世界に向けて発表。 ・ 「健康な食事」は大きいテーマだが、絞るか絞らないかは議論を待つ。 ・ この研究会は産業（企業）に対し、すぐに成果が上がるものではないが、一方では活動にファンディングも必要。 <p><u>組織と活動内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのWG活動内容はWG内での議論によって決定していく。3つのWGは、「健康な食事とはWG」（リーダー；佐々木敏先生）、「実態把握WG」（リーダー；坂田隆先生）、「社会実装WG」（リーダー；桑田有先生）。 ・ 各WGは独立した活動であるが、相互に関連しており、全体ミーティングで調整しながら進める。 ・ WGとは別にアドバイザリーボードと事務局を設置する。 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農水省のプロジェクト（京大中心の）について、クローズドセミナーを企画する。（中村先生に仲介を依頼） ・ JSTへの申請を紹介、5月に申請結果が判明。 <p>次回開催予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月17日を目途に、各々のWGへの参加意向を事務局に連絡 ・ 5月中に各WGグループミーティングを開催 ・ 6月、第2回研究会の実施
5, 6 月	<p>4月27日の第1回の研究会のフォローアップを順次行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーのWG分けを行った。 ・ 各WGのリーダーの先生と事務局で、サブリーダーの選任、WGの活動方針、WGのルール等について議論を行った。 ・ 農水省委託事業の日本食研究についての勉強会の企画を進め、講師3名で8月21日に開催することに決定。 ・ 研究費の調達について：JSTの未来創造事業への申請は研究会の活動とあまり整合しないと考えられた。今後の方針については要議論。 <p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WG1「健康な食事とは」の会合；7/13 ・ WG2「実態把握」の会合；7/14 ・ WG3「社会実装」の会合；7/10 <p>第2回研究会；7/14</p>
7, 8 月	<p>* 第2回研究会（7/14）：</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会の組織確認；3つのWG、アドバイザリーボード、事務局。会長は宮澤先生。 ・WGの活動方針 <ul style="list-style-type: none"> ◇ WG1；文献検索に特化。検索式は食事（食品・成分、食事パターン・スコア）×健康・病気（生活習慣病、認知症、サルコペニア）。内外の英語の疫学研究論文が対象。考察において日本人の特性を議論。 ◇ WG2；外食・中食・給食企業の現状取組をインタビューで調査。10月に3社程度試行。 ◇ WG3；自治体、企業・業界、大学での実装の事例の調査、システマティックレビューによる日本食の有用性検証、狭い領域での介入研究を実行したい。 * 健康な食事研究会 研究セミナー：農水省革新的技術創造促進事業 H26-H28 「世界の健康に貢献する日本食の科学的多面的検証」 8/21に花王(株)すみだ事業場にて開催した。出席者36名。 * 研究費の調達について アカデミアメンバーを中心に公的資金獲得の方策について議論継続中。同時にいくつかの財団からの助成の可能性も検討中。 * 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・WG活動継続 ・研究費調達検討の継続 ・第3回研究会：10月末～11月半ば予定
9, 10月	<ul style="list-style-type: none"> * 研究会方向性等確認 宮澤会長（9/13）：研究会活動と科研費申請など打合せ 佐々木WG1リーダー（9/4、10/10、10/19）： 「健康な食事」の概念、活動の新たな方向性など打合せ * 行政との意見交換 消費者庁芳賀課長補佐（厚労省検討会担当）（9/28） 厚労省福田健康局長（10/25） * 研究費調達について 日本財団助成金申請完了 * 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究会（11/6） ・WG活動の継続 ・研究費調達検討の継続
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究会目標の再確認 研究会全体 日本人の「健康な食事」の概念を把握し、「健康な食事」を実現するために必要な研究や施策に関する提言をし、国民の健康に貢献する。 WG1「健康な食事」概念提案 日本人の健康な食事関連論文のレビュー BDHQ／食事摂取基準を活用した食事観察調査で、個別化された「健康な食事」を研究

	<p>WG2/WG3 実証に基づく、実現性のある「健康な食事」の提言</p> <p>WG2 外食・中食・給食の実態調査をもとに、これらの業界の「健康な食事」についての考え方の把握と「健康な食事」の実現に必要な研究や施策に関する業界要望のまとめ</p> <p>WG3 食の視点から、健康経営の現場の目標と実態の乖離を埋める視点・アプローチを開発</p> <p>○ 全体会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回全体会議 11月6日 <p style="margin-left: 20px;">WG1の新たな取組について安川理事長から説明。</p> <p style="margin-left: 20px;">「誰でもが自分にふさわしい食事(食べ物)を選べる社会システムの構築」 多面的な意見が提示され、合意形成できず。12月1日: WGリーダー会議開催</p> <p style="margin-left: 20px;">WG1: 佐々木先生、WG2: 坂田先生、WG3: 桑田先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回全体会議 12月22日 <p style="margin-left: 20px;">研究会目標の再確認(上記)</p> <p>○ 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会活動報告 2018年2月19日 ・ 日本財団助成申請の結果判明 2018年3月 ・ WG活動の継続
--	--

◆ワーキンググループ1(WG1)科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築

1, 2月	
3, 4月	
5, 6月	
7, 8月	7/13に会合開催、活動方針を議論(全体会合の項に記載)、サブリーダー選任
9, 10月	<p>第2回会合(10/10)開催(15名)</p> <p>○ 取組むテーマについて再度議論</p> <p>栄養疫学の基本の習得を目指す(当面の課題)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取基準(2015版)掲載の資料不備な栄養素に着目し、「どの点が不備か」を引用された論文を教材に学ぶ。 ・ 佐々木先生提示テーマについて、具体的にシステマティック・レビュー(SR)を行ない、論文の質の評価を学ぶ。 <p>○ WGの新たな方向性について事務局から説明</p>
11, 12月	<p>第3回会合(11/6) ILSI会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐々木先生による食事摂取基準(2015)のレクチャーとBDHQ(簡易型自記式食事歴法質問票)実施 ・ 「健康な食事」とは個々人の健康課題を解決するテーラーメイドな食事を指す <p>第4回会合(12/4) 東京大学佐々木研究室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事摂取基準(2015)の課題の共有 ・ BDHQ結果共有と理解促進(WG1活動の有用なツール)

	<p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回会合（2018/1/12） 佐々木研究室 日本食の論文調査から「Japanese food」を読み解く (併せて、論文評価手法を学ぶ) ・BDHQ 活用実習と食事観察調査実施のための基礎情報収集
--	---

◆ワーキンググループ2(WG2) 外食・中食・給食の実態把握

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	7/14 に会合開催、WG 内のルール決め、活動方針を議論。外食・中食・給食企業のインタビューを行う前に、研究会内の関係者から聞き取りを行うことに決定。
9, 10 月	<p>外食・中食・給食業界インタビューの事前情報収集のため、研究会内関係者からヒアリングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 給食産業界：大手給食企業 総合研究所 課長様 9/20 ■ 外食産業界：大手外食企業 ホールディングカンパニー 会長様、経営企画部長様、レストランチェーン社長様 10/6 ■ 中食産業界：大手 CVS 執行役員様 10/27
11, 12 月	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界（外食・中食・給食）情報ラウンドテーブル（9 月、10 月）のまとめを実施（12 月中） ・インタビュー／ヒアリング候補及び聞き取り項目案の策定 ・団体・企業への調査のための事前研究、生活者の実態把握（文献）

◆ワーキンググループ3(WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証

1, 2 月	
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	<p>7/10 に会合開催、活動方針を議論、また、社会実装の先行事例を共有した。事例は、カゴメ、花王、生活習慣病予防研究センター；岡山明先生。</p> <p>8/21 にも会合開催、活動方針・内容・アウトプット等について意見交換。実装の評価指標の設定に資するべく、行動変容プロセス評価視点を村山先生（新潟県立大）に講演依頼する。</p>
9, 10 月	WG2 のヒアリング（上記）傍聴 桑田先生、園木
11, 12 月	<p>活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康経営における取組状況の実情調査 ・健康経営意識の高い企業検索とヒアリングの実施

CHP

【Project PAN (Physical Activity and Nutrition)】

<p>1, 2 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) 1/10, 17, 24, 31 いきいきランチ教室 (八広地域プラザ, 墨田区) 1/25 テイクテンサポーター講習会 ((株)味の素 関東支店,さいたま市中央区) 1/31 震災被災地支援:いしのまきテイクテン (石巻専修大学) 2/6 世田谷区主催介護予防教室 (世田谷区上祖師谷グループホームかたらい) 2/7, 14, 21, 28 いきいきランチ教室 (八広地域プラザ, 墨田区) 2/9 「ウィズ・エイジングゴルフプロジェクト 第二回健康講座」 (高萩公民館, 埼玉県日高市) 2/10.28 「テイクテンサポーター講習会」 (ILSI 事務所)</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) 3/7, 14 いきいきランチ教室 (八広地域プラザ, 墨田区) 3/14-16 テイクテンリーダー養成講座 (島根県吉賀町) 3/15 「テイクテンきよらプロジェクト」第 1 回交流会 (吉賀町福祉センター, 島根県)</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) 5/10 自主サークル YY テイクテン (中ノ郷信用組合本店, 墨田区) 5/25 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区) 5/26 横浜市葛が谷地域包括支援センター主催「イケてるおじ様になる講座」 (葛が谷地域ケアプラザ, 横浜市) 5/27 明和短期大学主催, 味の素株式会社後援, 上毛新聞・ILSI Japan 協力「ロコモ予防サークルセミナー」 (明和短期大学, 前橋市) 6/7 介護予防「らくらく教室」講習会 (地域包括支援センター千住本町, 足立区) 6/7 錦町社会福祉協議会主催「テイクテンリーダー養成講座」 (岩国市社会福祉協議会錦支部, 山口県) 6/8 吉賀町社会福祉協議会主催 町民向け講演会「吉賀で手に入れるアンチエイジングの術」 (吉賀町福祉センター大会議室, 島根県) 6/8-9 吉賀町社会福祉協議会主催「テイクテンリーダー養成講座」 (吉賀町福祉センター, 島根県) 6/9 食生活改善推進委員研修会「自宅でサロンでテイクテン」 (吉賀町福祉センター, 島根県) 6/24 日本健康教育学会ランチョンセミナー 「高齢期の健康とヘルスプロモーション～地域におけるヘルスプロモーションの実践～」 (早稲田大学, 新宿区) 6/30 震災被災地支援:いしのまきテイクテン (曙北復興住宅集会所, 宮城県)</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) 7/10 震災被災地支援:いしのまきテイクテン (石巻専修大学) 7/11 震災被災地支援:いしのまきテイクテン (北上地区仮設にっこりサンパーク団地集会所, 宮城県) 8/24 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区)</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) 9/2 明和短期大学主催, 味の素株式会社後援, 上毛新聞・ILSI Japan 協力「第 2 回ロコモ予防サークルセミナー」 (明和短期大学, 前橋市) 9/7, 21 すみだテイクテン教室 (墨田総合体育館) 9/12, 26 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若)</p>

	<p>9/13, 20 すみだテイクテン教室（すみだ女性センター）</p> <p>9/15 自主サークルなでしこテイクテン（中ノ郷信用組合立花支店,墨田区）</p> <p>10/4, 18 すみだテイクテン教室（すみだ女性センター）</p> <p>10/10, 24 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若）</p> <p>10/12, 19 すみだテイクテン教室（墨田総合体育館）</p> <p>10/6 ベイシアロコモセミナー（一般生活者 50 名参加, ベイシア文化ホール, 前橋市）</p>
11, 12 月	<p>11/1 第 76 回日本公衆衛生学会総会（鹿児島）で発表。演題「介護予防事業における食品摂取頻度スコアの妥当性—食品摂取の多様性得点との比較—」</p> <p>11/1, 15 すみだテイクテン教室（すみだ女性センター）</p> <p>11/2, 9 すみだテイクテン教室（墨田総合体育館）</p> <p>11/13 墨田区介護予防サポーター養成講座（墨田区役所）</p> <p>11/14 江戸川人生大学 介護・健康学科 1 年次 講義（江戸川人生大学）</p> <p>11/14, 28 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若）</p> <p>11/24～25 石垣プロジェクト（石垣島の資源を活用した未病・予防ツーリズム開発事業） 石垣市事前実地調査（石垣市）</p> <p>11/29 テイクテン自主グループ交流会 調理実習（墨田女性センター）</p> <p>11/29～12/2 石垣プロジェクト実施（石垣市）</p> <p>12/5 震災被災地支援：いしのまきテイクテン（石巻専修大学, 南堺第四団地集会所）</p> <p>12/12, 26 すみだテイクテン教室（スポーツプラザ梅若）</p> <p>12/13 すみだテイクテン教室（すみだ女性センター）</p> <p>12/14 すみだテイクテン教室（墨田総合体育館）</p>



【Project SWAN(Safe Water and Nutrition)】

<p>1, 2 月</p>	<p>2/17 「ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業（以下 AIN）」 AIN による活動視察（CHP スタッフ、バクザン省保健局職員 5 名, NIN(ベトナム国立栄養研究所) 職員 3 名, バクザン省, ベトナム）</p> <p>1-2 月 AIN: 栄養カウンセリングや栄養・食品衛生に関する情報提供を継続的に実施（ターイグエン省・バクザン省, ベトナム）</p> <p>1-2 月 SWAN3: 安全な水・栄養・食品衛生教育及び情報提供を継続的に実施（ハナム省・ナムディン省, ベトナム）</p>
<p>3, 4 月</p>	<p>3 月 ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業（以下 AIN 支援事業）: 栄養カウンセリングや栄養・食品衛生に関する情報提供を継続的に実施（ターイグエン省・バクザン省, ベトナム）</p> <p>3 月 安全な水・栄養・食品衛生教育及び情報提供を継続的に実施（ハナム省・ニンビン省, ベトナム）</p> <p>4/14 AIN 支援事業: 事業完了ワークショップ（ターイグエン省保健局主催, 対象村・区・省関係者 18 名参加, ターイグエン省, ベトナム）</p>
<p>5, 6 月</p>	<p>5/4 ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業（AIN 支援事業）: 事業完了ワークショップ（バクザン省保健局主催, 対象村・区・省関係者 24 名参加, バクザン省, ベトナム）</p> <p>6 月 インドネシアにおける Feasibility Study 調査完了</p>
<p>7, 8 月</p>	<p>8/15 SWAN3: 水処理施設 5 か所の点検を実施（ハナム省予防医学局 8 名, ハナム省, ベトナム）</p>
<p>9, 10 月</p>	<p>◇ SWAN ベトナム</p> <p>10/9, 30 ILSI より各省へ紙芝居式教材の供与（栄養・食品衛生 400 部及び安全な水・衛生環境 400 部、ニンビン省、ハナム省）</p> <p>10/16,19,24 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いたコミュニケーション能力向上研修（省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省）</p> <p>10/17, 20, 25 地域ヘルスワーカーを対象とした料理教室開催に関する研修（省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省）</p> <p>10/18, 23, 26 地域ヘルスワーカーを対象とした栄養・食品衛生及び安全な水・衛生環境に関する研修（省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省）</p>
<p>11, 12 月</p>	<p>11/1~3 地域ヘルスワーカーを対象とした研修 ①紙芝居式教材を用いたコミュニケーション能力向上研修 ②料理教室開催に関する研修（省・区サポートチーム主催, 25 名参加、ハナム省, ベトナム）</p> <p>11/19~20 安全な水及び栄養に関する情報提供（ハナム省, ベトナム）</p> <p>11/20~21 省担当者による村の活動視察（ハナム省, ベトナム）</p> <p>12/18~19 省担当者による村の活動視察（ハナム省, ベトナム）</p> <p>12/19~20 安全な水及び栄養に関する情報提供（ハナム省, ベトナム）</p>

CHP

【Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)】

1, 2 月	特になし
3, 4 月	特になし
5, 6 月	特になし
7, 8 月	特になし
9, 10 月	9/11～16 NJPPP（栄養改善推進事業プラットフォーム：詳細はホームページ参照： http://njppp.jp/project ）の運営委員会に ILSI スタッフが参加，カンボジアにおける栄養強化米導入に関し検討（2名参加，プノンペン、カンボジア）
11, 12 月	11/28 栄養改善事業推進プラットフォーム（NJPPP）主催セミナー「持続可能な開発目標（SDGs）に対応した栄養改善ビジネスの展開に向けて」に参加（企業、大学、研究機関、NGO、国連機関等から約 65 名参加，虎ノ門ヒルズ）

CHP

◆CHP 全体

1, 2 月	特になし
3, 4 月	特になし
5, 6 月	特になし
7, 8 月	特になし
9, 10 月	特になし
11, 12 月	特になし

国際協力委員会

1, 2 月	特になし
3, 4 月	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア各国における栄養表示・健康強調表示のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・当該活動の協同リーダーである ILSI 東南アジア支部の Paulin Chan 氏からアジア各支部にドラフト作成を依頼し、最新の情報をまとめる。まとめたものは、今後は各支部の責任において支部ごとで更新することを考えているが、BeSeTo 会議等での報告も考えられる。 2. 「BeSeTo 会議」 <ul style="list-style-type: none"> ・8月31日、9月1日に都市センターホテル（東京）で開催予定。シンポジウムは「食物アレルギー」をテーマにする。 3. CODEX、FAO/WHO 等動向に関する情報収集/共有 <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニック、アクアカルチャー、FOP ラベル等の動向を確認しつつ、今後も継続的に情報共有するかは要検討。 4. 農林水産省委託事業 <ul style="list-style-type: none"> ・当委員会として、本年度の受託を目指して準備していく。
5, 6 月	<p>部会開催（6月21日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ILSI の使命・行動原則の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、改めて全委員に対して ILSI 本部作成の「ILSI の使命・行動原則」の説明がされた。 2. 「アジア各国における栄養表示・健康協調表示のまとめ」の進捗報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ILSI 東南アジア支部の Paulin Chan 氏からアジア各支部に対してフォーマットが提示された（回答期限：6月末）が、実際には BeSeTo 会議の場で情報が共有されることになることが予想されると事務局より説明があった。 3. 国際協力委員会の活動戦略について議論 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は農林水産省委託事業に応募しないこととなったこと、BeSeTo 会議も3巡目が終了予定であり転換期となっていること等を鑑み、今後の当委員会の活動戦略について各委員から意見を求めた。事前にメール等で寄せられた以外に委員会会議当日全出席委員から意見をもらったので、事務局でとりまとめ次回会合でさらに議論を継続する予定。 4. BeSeTo 会議準備 <ul style="list-style-type: none"> ・日本からの演題および演者案を議論した。また、当日の役割を一部決め、ロードマップも示された。
7, 8 月	<p>部会開催（7月26日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BeSeTo 会議プログラムの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、BeSeTo 会議および、それに先立ち開催されるサテライトシンポジウムのプログラムの説明がされた。 2. BeSeTo 会議における日本からの演題および演者の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・前回の部会で議論したことに少々修正を加え、新演題を含め日本からは以下7演題発表することに。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「食のリスクコミュニケーションの課題」[高橋（ネスレ）]、2) 「酵素の健康

	<p>影響評価指針」[滑川(ナガセ)]、3)「食品部生物研究部会の戦略と活動の実際(MGS, MALDI-TOF/MS等)[佐藤(花王)]、4)「食品安全を担保するための現在の課題」[中江大先生]、5)「日本でのHACCPの義務化に向けての課題」[厚生省監視指導課 福島和子様]、6)「保健機能食品の最新動向」[菅谷(花王)]、7)「BeSeTo会議の今後の方向性に関して」[高橋(ネスレ)]</p> <p>3. BeSeTo会議当日の役割分担と当日までのロードマップ確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局および国際協力委員会のメンバーで当日の役割を分担することに。 <p>4. BeSeTo会議の方向性案をまとめた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に委員に対して意見を求め各委員に共有。事前の意見と当日の議論を基に、日本からは3つの方向性案を提案することとし、委員長がマテリアルを作成し事前に委員に共有して確認することにした。 <p>BeSeTo会議(8月31日午後～9月1日)およびサテライトシンポジウム(8月31日午前)開催</p> <p>サテライトシンポジウムには60名を超える参加があり、日中韓の3か国の専門家による「食物アレルギー」をテーマにした発表および質疑応答後、パネルディスカッションが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Labeling regulations on food allergy in Japan - Dr. Hiroshi Akiyama : Head Division of Foods, National Institute of Health Sciences ・ Food Allergen Management in China - Dr. Yongxiang Fan : Head, Division of Food Safety Standard I, China National Centre for Food Safety Risk Assessment ・ Food allergen Management in South Korea - Ms. Heejung Lee : Senior Researcher, National Food Safety Information Service <p>続く午後からのBeSeTo会議には、日本の他ILSIの各アジア支部からの参加者総勢50名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>8月31日午後の会議での日本からの演題および演者は以下の通り(発表順)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Food risk communication - Ms. Tomoko Takahashi : ICC ・ Guidelines for risk assessment of enzymes used in food processing - Mr. Keisuke Namekawa : ICC <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p>
9, 10月	<p>BeSeTo会議(8月31日午後～9月1日)</p> <p>8月31日の午後に続き9月1日は終日BeSeTo会議を実施。</p> <p>会議には日本の他ILSIの各アジア支部からの参加者総勢50名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>9月1日の会議での日本からの演題および演者は以下の通り(発表順)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品微生物研究部会の戦略と活動 佐藤 惇氏 (ILSI Japan 食品微生物研究部会、花王(株)) ・ 食品の安全性保証に関する現在の懸念 中江 大氏 (ILSI Japan 理事、東京農業大学) ・ 日本におけるHACCP導入義務化検討 福島 和子氏 (厚生労働省)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本における食品のヘルスクレーム規制に関するアップデート：特定保健用食品（FOSHU）及び機能性表示食品 菅谷 博之氏（花王(株)） <p>続いて ILSI 東南アジア支部の Ms. Pauline Chan による支部間協力プロジェクトの進捗報告と今後の活動計画に関して全員で議論した。</p> <p>最後に BeSeTo 会議の今後の方向性に関し当委員会委員長よりいくつか方向性案を提示し全員で議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の BeSeTo 会議の方向性に関する提案 高橋 智子（ILSI Japan 国際協力委員会） <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p> <p>部会開催：9月15日(水)</p> <p>8/31, 9/1 に行われた BeSeTo 会議の振り返りを行った。</p> <p>各出席者から感想をもらったほか、会議での議論を踏まえて今後の BeSeTo 会議の在り方に関する日本としてみ解を改めて検討した。会議開催までのタイムラインとともに、以下の事項を日本から改めて会議参加支部に対して提案することに。</p> <p>年初に各支部の活動内容を参加支部間で共有し、次回の BeSeTo 会議で共有する課題案を各参加支部から募る。</p>
11, 12 月	<p>部会開催：11月14日(火)</p> <p>情報共有：事務局長よりイギリスの NPO 法人 IFIS（International Food Information Service）と面談した結果の情報共有があった。IFIS は Food science and health regulation database を提供し契約ベースで会員が法規を検索・ダウンロードできる仕組みを持つ。</p> <p>議題：規制調査結果の情報更新方法について。</p> <p>各支部へ情報更新を依頼する前に、まずは委員で担当国を分担し、年内に各国報告書のハイパーリンク先の状況をチェックし、再度リンク先の内容と、英語か現地語かの別も調べ、現在の報告書がどの程度 Out of date になっているかを把握することとした。</p> <p>次回 2 月に予定している部会で、何ができそうかを議論して今後の方針を決める予定である。</p>

【情報委員会】

<p>1, 2 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (1, 2 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 2 号 (通巻 95 号) : 2/10 発刊 ・ 25 巻 3 号 (通巻 96 号) : 監修、編集 (5/10 刊行予定) ・ 2/21 編集委員会開催 (通巻 97 号採択論文、翻訳者候補決定)
<p>3, 4 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (3, 4 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 3 号 (通巻 96 号) : 監修、編集 (5/10 刊行予定) ・ 25 巻 4 号 (通巻 97 号) : 翻訳、監修、編集 (8/10 刊行予定)
<p>5, 6 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (5, 6 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 3 号 (通巻 96 号) : 編集 (5/10 刊行) ・ 25 巻 4 号 (通巻 97 号) : 翻訳、監修、編集 (8/10 刊行予定) ・ 5/23 編集委員会開催 (通巻 98 号の採択論文・翻訳者候補決定)
<p>7, 8 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (7, 8 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 4 号 (通巻 97 号) : 編集 (8/10 刊行) ・ 26 巻 1 号 (通巻 98 号) : 翻訳、監修、編集 (11/10 刊行予定) ・ 8/29 編集委員会開催 (通巻 99 号の採択論文・翻訳者候補決定)
<p>9, 10 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (9, 10 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 26 巻 1 号 (通巻 98 号) : 編集 (11/10 刊行予定) ・ 26 巻 2 号 (通巻 99 号) : 翻訳、監修 (2/10 刊行予定)
<p>11, 12 月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催 2 回 (11, 12 月) 2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時)

3. 「栄養学レビュー」誌

- ・ 26 卷 1 号 (通卷 98 号) : 編集 (11/10 刊行)
- ・ 26 卷 2 号 (通卷 99 号) : 監修、編集 (2/10 刊行予定)
- ・ 11/29 編集委員会開催 (通卷 100 号の採択論文・翻訳者候補決定)

***編集部会**

1, 2 月	<ul style="list-style-type: none">・ 「イルシー」誌 129 号、発行（2 月）・ 「イルシー」誌 130 号、原稿査読・編集
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none">・ 「イルシー」誌 130 号、原稿査読・編集
5, 6 月	<ul style="list-style-type: none">・ 「イルシー」誌 130 号発刊、131 号原稿査読・編集
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none">・ 「イルシー」誌 131 号 7 月刊行、132 号原稿査読・編集
9, 10 月	
11, 12 月	

事務局

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>平成 29 年通常総会が平成 29 年 2 月 22 日(水)10:00 より神田カンファレンスで開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 平成 28 年度事業活動報告書案が承認されました。</p> <p>第 2 号議案 平成 28 年度決算報告書案が承認されました。</p> <p>第 3 号議案 平成 29 年度事業活動計画書案が承認されました。</p> <p>第 4 号議案 平成 29 年度収支予算書案が承認されました。</p> <p>繰越金を研究会活動に配分すべきとの提案があり、理事会で今後検討することとした。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 本部総会報告</p> <p>2017 年の ILSI 本部総会の概要を報告。</p> <p>One ILSI 戦略を強化すべく食品安全、栄養の 2 分野に絞り、支部間協働テーマを創設すべく議論が重ねられた。詳しくはイルシー誌 No.130 及び ILSI ウェブサイト参照。</p> <p>2. 定款変更について</p> <p>2016 年の支部総会にて、役員任期を総会までにするという定款変更を決議したが、違法となるケースがあるので「不認証」との連絡を受け、変更を中止したことを説明した。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

【事務局】

1, 2 月	特になし
3, 4 月	3 月末日付にて退職者 2 名、特別顧問 浜野氏、総務担当 池畑氏。サントリーOB 太田氏と業務委嘱契約を締結し、3 月 1 日より業務開始。
5, 6 月	5 月 8 日から、次長として、在田典弘氏（元バイエル・クロップ・サイエンス（株）勤務）と雇用契約締結、主にバイオテクノロジー研究会の事務局業務を担当。
7, 8 月	特になし。
9, 10 月	<p>第 4 回理事会を平成 29 年 10 月 27 日（金）に開催。</p> <p>決議事項</p> <p>新監事就任の件</p> <p>小路監事の後任監事として森永製菓株式会社の守田稔氏を承認。</p> <p>報告・討議事項</p> <p><研究会活動の活性化></p>

	<p>1. 健康な食事研究会進捗報告</p> <p>WG1の佐々木先生から「今ある論文では、健康な食事の概念をまとめることは難しい。食事摂取基準をひとつの目安として、BDHQで人をグループ分けし、食事を写真でアプリに入力してデータを集め、それで食事の助言をし、集めたデータを解析して食事摂取基準を改善したい。」との提案をいただき、この方向で、時間軸を決め11/6の全体会議で方向付けを行う予定。</p> <p>2. 発展型寄付講座創設の報告</p> <p>AIの技術者、専門家と議論しつつ、新寄付講座の可能性の検討を継続中。理研、産総研との議論も進み、また、弘前のデータのクレンジングも進んできて、年内には見極めができる状況。</p> <p>また、新寄付講座のひとつの方向として、動物試験代替がありうる。ILSI EUで動物試験代替のTFが2016年の後半に立ち上がり活動開始。このTFの活動にリスク研究部会が参画することになった。</p> <p>講座開設先としての弘前COIの選択への疑問点、注意点、動物試験代替のEUの動きに関する助言等が出された。</p> <p>3. 研究会・研究部会への活動支援—予算枠と審査委員会の承認</p> <p>申請書に基づき、審査委員会にて11/20審議予定。予算枠は、一研究会・部会で30万円×5部会=総額150万円で、対象は「食品微生物部会」、「食品リスク研究部会」、「栄養研究部会」、「茶情報分科会」、「バイオテクノロジー研究会」の5部会、審査員案を提案し、承認された。</p> <p>4. 栄養とエイジング国際会議：企画概要案・企画委員会案</p> <p>総合テーマは、「食事と運動による健康寿命の延伸（仮）」とし、2部構成にて行う。日程は、2019年9月末の2日間、東大農学部 弥生講堂にて開催。企画委員長は宮澤理事に依頼し、他の企画委員は、今後打診。アジア栄養学会議が同じ時期に開催されるので、日程が重複しないようにとの助言があった。</p> <p><2017年決算見込、2018年予算一次案></p> <p>当年の収支見込を計算したところ、ILSI Japanの損益は黒字だが、CHPの損益は赤字の予定。来年の収支を計算するとILSI JapanもCHPも共に赤字の予定。CHPの赤字は、近年の会費の減少が根源的な要因。次回理事会までに改善策を出すことにした。</p> <p><連絡事項></p> <p>1. 2018年理事会日程</p> <p>2. 本部総会の日程・開催場所</p> <p>2018年1/19～24日、場所はバミューダ。各支部からの科学セッションがあり、そのセッションで日本からは食品微生物部会が成果を発表する。</p>
11, 12月	特になし

【理事会】

1, 2 月	<p>第1回理事会が平成29年2月7日（水）15時より開催された。</p> <p>決議事項 （総会議案）</p> <p>1. 平成28年度活動報告書案 報告の手順として、「本部との関係」「トピックス」「各研究部会活動」「CHPの活動内容」とし、内容として「組織図」を入れるなど初めて出席する会員にも分かり易くすべしとの意見に従い、修正することにした。</p> <p>2. 平成28年決算報告書案 繰越額について議論があり、今の額が決して多くはないとの意見が出た。また税金の支払いについて質問が出た。ILSI Japanの会計が3つの会計単位から構成されていることの説明が不十分の指摘があり、修正することにした。</p> <p>3. 平成29年度活動計画書案 CHPの活動体制整備の具体論を書き加えることとなった。新寄付講座の内容について、質問や意見が出たがさらに議論を重ねることが必要とのことで議論終了。</p> <p>4. 平成29年度収支予算書案 CHPの資金不足に質問が出て、新たなドナーの確保のことや本部移管検討の状況について、担当理事に対して確認があった。</p> <p>報告</p> <p>1. 支部総会報告事項</p> <p>① 本部総会報告 発表内容を事務局長が説明、特に意見はなし。</p> <p>② 定款変更 前総会にて役員任期の変更決議をし、都庁に申請したが、違法となるケースがあるため不認証となった。</p> <p>2. 健康な食事研究会 シンポジウムに、食品産業記者会の記者が参加できないことがわかり、記者説明会を設定することにした。</p> <p>3. 発展形寄付講座 質疑なし。</p> <p>4. その他 サントリーOBの太田氏が、浜野氏後任として3/1から事務局次長として勤務開始。</p>
3, 4 月	<p>第2回理事会が平成29年4月21日（金）15時より開催された。</p> <p>1. 決議事項 議案 古野純典氏の理事退任承認 満場一致で承認された。</p> <p>2. 討議事項 今後の活動方針</p> <p>① 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 健康な食事研究会状況報告 設立シンポジウム開催後の活動について事務局長より報告。 外食産業記者会への説明、入会の呼びかけ、参加企業名、JST未来社会創造事業への申請、第1回研究会開催予定、組織案。</p> <p>イ) 発展型寄付講座創設に向けて - タスクフォースによる方向付けの中間報告 安全性に関わるテーマの具体化：産業界からの要望ヒアリング、識者との動物実験代替に関する議論 中間報告：①食品安全性の新たなプラットフォーム構築、 ②健康リスクの回避のためのマーカー開発</p>

	<p>以上について報告があり、その後、理事等の中で経緯の説明や討議がされた。</p> <p>ウ) 研究会・研究部会への活動支援 予算策定に合わせ、各会より活動計画とその概算要求を提出いただき、それを理事会で審査、来年の支給額を決定する。</p> <p>② 公共性明確化・ガバナンス強化 ア) 本部理事会の役割の明確化 本部理事会と支部のコミュニケーション不足を理由に「英文:本部理事会の役割」資料を読み、各支部の認識を深めるよう指示があり、理事会に事務局長が説明。ILSIは公益のための組織であること、企業の利益のために動くのではないこと等。</p> <p>イ) 策定すべき指針 (Mandatory policies) の実行 理事の利益相反関係宣誓書、事務局長の職務記述書、文書保管廃棄指針、旅費精算指針等を日本語に翻訳、日本支部版用に編集し、7月の理事会で確認予定。</p> <p>③ 事務局の強化・効率化 ア) 事務局会議の設置；月1回、理事長参加の次長以上の会議 目的；事務局業務の共有と整理、課題・対応についての議論・検討、改善の実施等。</p> <p>イ) イルシー誌合理化検討；課題 事務局長より説明。イルシー誌の課題は以下の通り。 ・あまり価値が高くないと一部では認識されている。 ・各号のテーマが必ずしも明快ではない。 ・(ストックが多く) 物理的に事務所の場所を占めている。 対応策としてたたき台は以下の通り。 ○内容の見直し 機関紙に特化し、書下ろしは別出版物に。 ○媒体の変更 紙を電子媒体へ変えネット配信(アクセス権管理がかなり複雑になるが)。 対応策に対して以下のような意見が出た。 ・タイムリーな Newsletter 形式と定期の精選した紙媒体に分ける。 ・広く出す情報と会員の特典をはっきり区分すべき。 ・アクセス権は短期間限定(1年程度)で、それが過ぎたら会員以外にもフリーにする。 ・紙媒体は、会員以外にも贈呈できる便利さがある。 再度整理して、事務局より理事会に提案する。</p>
5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>第3回理事会が平成29年7月25日(火)15時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>1) 新理事就任の件 古野理事の後任として、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事の阿部圭一氏が理事に就任することについて全員一致で承認した。</p> <p>2) 特定非営利活動促進法の改正への対応と定款変更の承認 特定非営利法人促進法の改正内容の説明があり、その対応として当機構は毎年の貸</p>

借対照表を当機構のホームページに掲載して公告すること、またその旨を定款の第8章公告の方法の条文に追加することの2項目を提案し、特に異議なく承認した。

報告・討議事項

1) 健康な食事研究会進捗報告

3つのワーキンググループ(WG)活動方針、WG間の連携の在り方、研究会のルール、「健康な食事研究会の研究セミナー」の案内等が報告された。

2) 発展型 ILSI 新寄付講座創設について中間報告 2

当初「食のリスク」、「食の健康」の2テーマに絞り議論をしたが、社会課題と産業機会、オープンイノベーション、独自性の観点から事務局内で再度議論した結果、産業界の関心がより強いのは「食と健康」分野であり、かつ「ビッグデータ×AI(人工知能)」が大きなキーワードとなり、独自性が高く先頭を走る研究実績と産業機会から候補の一つとして弘前 COI に着目し、このディープデータと健診や生活から得るデータを組み合わせ、AI技術を駆使して、未病状態の見える化技術や個人に最適化されたテーラーメイド型のサービスやモノなどのソリューションプログラムを開発し、個別化予防の社会実装につなげる。このために弘前データの補完が必要となり、これを ILSI Japan の寄付講座で実施する、と報告した。この方向性や内容について、各理事より質問、意見が多数出た。

3) BeSeTo 会議 (8/31~9/1 開催予定)

今年のサテライトシンポジウムのテーマは、「食品アレルギー」で、新たに「今後の BeSeTo 会議の在り方」も討議する。

4) 研究会・研究部会の支援

全体の収支予測と各研究会・研究部会の収支実績から、仮に均等支給した場合の支給額の目安を事務局が提案した。各研究会・研究部会より活動計画&概算要求を提出してもらいそれを理事会で審査し、支援額を決めるとの確認があった。

また、当機構として保有すべき繰越金を提案し、会費収入がなくても人件費家賃等の支払が可能な金額を残す案が採択された。

5) Mandatory Policies の実行

ILSI Japan の Mandatory Policies を策定したので 確認いただきたいとの説明があった。すでに利益相反に関する開示書は各理事より入手、完了している。

6) ILSI 全体のガバナンス強化策

ILSI 全体のガバナンス、マネジメントを強化する為に、本部と支部の間に、各支部の事務局長から構成される組織体 ILSI Management Team を設立し、今まで本部で実行してきた役割を一部移す方向が決定されたと報告した。

7) 滞留「イルシー」誌の廃棄

2009年発行以後の「イルシー」誌の在庫を当事務所にて保管しており、ここ3年間2009年~2011年発行分は出荷がなく、保管スペースも不足しており、順次廃棄処分したい旨提案し、承認された。

9, 10月

11, 12月

第5回理事会が平成29年12月22日(金)16時から開催された。

I. 決議事項

議案：今年度収支見込最終案、来年度収支予算最終案

今年度収支見込が連結ベースで損失になるが、その原因が CHP の収入面で JICA への応募による助成金が獲得できなかったことに起因すると説明。さらに来年度の収支について、東大寄付講座終了に伴う収入の減少、各研究会・部会活動の活発化による費用の増加、CHP の収入面の低迷が避けられず、連結ベースで損失となることについても説明。理事長より今後収入を増やすために、プロジェクト基金連絡会の当初の参加企業や行政に資金拠出の働きかけを実施すると発言があった。全員一致で原案が承認された。

II. 報告／討議事項

1. 研究会活動の活性化

1) 「健康な食事研究会」進捗報告

3つのワーキンググループに分かれ、これまで研究会を4回実施した。2/19の支部総会終了後の午後に、状況報告と討論会を実施予定。

2) 寄付講座の今後について

この1年間、議論・検討を続行中。15年間実施した東大寄付講座は総括をする予定。新寄付講座として、弘前大学 COI の健康ビッグデータと人工知能技術の組み合わせによって、個人の未来の健康状態を予測し、病気・老化を予防し、健康をサポートするシステムを開発する寄付講座を検討中。

3) 動物実験代替タスクフォース

食品分野における動物実験代替のプロジェクトが、ILSI Europe で始まり、アジア担当として ILSI Japan に協力要請があり、食品リスク部会が受けることになった。国立衛生研の小島先生に指導を仰ぎながら、第1ステップとして、動物実験が関与する関連法規の調査とまとめを行う。期待される効果として、EU の規制リスクを回避あるいは最小化できる有用な手段を獲得できる、有益な動物非使用技術を獲得できることで研究開発の効率化・迅速化が図れるがある。

4) 研究会・研究部会への活動支援の審査結果報告

11/20 に会長、理事長、桑田副理事長、宮澤理事に審査いただいた結果、支援要請の4部会とも申請通り承認された。

5) 「栄養とエイジング」国際会議の企画概要案・企画委員会案

総合テーマ：食事と運動による健康寿命の延伸（仮題）

構成：1部—健康な食事、2部—栄養科学と運動科学の融合

日程：2019/10/1～2

会場：東大農学部 弥生講堂一条ホール

企画委員長—宮澤理事、健康な食事の企画委員候補者10名、「栄養と運動」企画委員候補者—宮地先生を筆頭に5.6名程度

2. 2018～2019年役員改選

木村会長が次回の総会で退任、他は重任となる。

3. 本部総会

日程：1/19～24、場所：英領 バミューダ

ポイントは、「今回のスローガン—社会に貢献する科学」、「ILSI ガバナンス改

革」、全支部から公募の「科学セッション」。

ポスターセッションは、「健康な食事研究会」の方針・進捗と東京農大の煙山紀子先生の研究紹介。

科学セッションでは、日本支部として「MALDI - -TOF- -MS プロジェクト」を発表。

その他、アジア支部ミーティングが開催される。